

## 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会について

令和3年11月11日

北上土地改良調査管理事務所

# 令和3年度 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会 設置要領

## 第1 目的

近年の頻発化・激甚化する水災害に備え、河川流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策である「流域治水」の取組推進が重要となっており、令和3年3月23日に閣議決定された土地改良長期計画においても、流域治水の推進として、水田の洪水防止機能を強化する田んぼダムに取り組む水田面積の拡大等が掲げられている。

このため、現地調査結果等による田んぼダムの雨水貯留効果の検証やその特性、普及に向けた留意点などについて、専門的な見地から総合的な検討を行うために、検討会を設置するものである。

## 第2 会議の招集

会議は、農林水産省農村振興局整備部水資源課長または農地資源課長（以下「水資源課長等」という。）が招集する。

## 第3 委員構成

- 1 委員は、別紙のとおりとする
- 2 委員長は、委員の互選により選任する。
- 3 委員長は、必要に応じ委員長代理を指名することができる。
- 4 水資源課長等又は委員長は、委員のほか、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見の表明や説明を求めることができる。
- 5 委員の任期は、当該年度末までとする。
- 6 やむを得ぬ事情により任期の途中で委員が退任する場合には、補欠委員を選任することができる。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 7 委員の代理出席は、原則として認めない。

## 第4 検討事項

- 1 水田の持つ雨水貯留機能の特性
  - (1) 営農・水管理との関係
  - (2) 雨水貯留機能向上の取組への意義
- 2 水田の持つ雨水貯留機能の効果
  - (1) 水田の基本的な雨水貯留機能の評価
  - (2) 水田の雨水貯留機能向上の取組の効果

### 3 普及・拡大に向けた留意点

- (1) 雨水貯留機能向上に効果的な取組エリアの考え方
- (2) 営農・収量等に与える影響
- (3) 取組拡大のための留意点・体制整備・合意形成

## 第5 事務局

検討会に係る事務は、農村振興局整備部水資源課において処理する。

### 付 則

この要領は、令和3年9月1日から施行する。

令和3年度 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会

委員名簿

<検討会委員(五十音順)>

桐 博英	国立研究開発法人 農業・食品技術総合研究機構 農村工学研究部門 水利工学研究領域長
斎藤 貴視	北海道岩見沢市農政部 農業基盤整備課長
椿 一雅	一般社団法人農村振興センターみつけ 事務局長
中村 公人	国立大学法人京都大学大学院 農学研究科地域環境科学専攻 教授
吉川 夏樹	国立大学法人新潟大学大学院 自然科学研究科環境科学専攻 教授
渡邊 紹裕	国立大学法人熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 特任教授

<農村振興局>

緒方 和之	水資源課長
北林 英一郎	農地資源課長
鈴木 光明	水資源課調査官
長山 政道	水資源課農業用水対策室長
秋永 邦治	農地資源課多面的機能支払推進室長
斎藤 大作	水資源課水資源企画官
上山 泰宏	水資源課課長補佐
宮袋 友作	農地資源課課長補佐
片石 圭介	農地資源課課長補佐
上野 豊	農地資源課課長補佐

<オブザーバー>

朝田 将	国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 河川計画調整室長
竹下 哲也	国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部 水循環研究室長
大沼 克弘	国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター 上席研究員

## 水田の持つ多面的機能の活用に向けた検討会(案)

### 令和3年度 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会

#### 検討項目

- 1 水田の持つ雨水貯留機能の特性
  - (1) 営農・水管理との関係
  - (2) 雨水貯留機能向上の取組への意義
- 2 水田の持つ雨水貯留機能の効果
  - (1) 水田の基本的な雨水貯留機能の評価
  - (2) 水田の雨水貯留機能向上の取組の効果
- 3 普及・拡大に向けた留意点
  - (1) 雨水貯留機能向上に効果的な取組エリアの考え方
  - (2) 営農・収量等に与える影響
  - (3) 取組拡大のための留意点・体制整備・合意形成

委員 渡邊紹裕 特任教授(熊本大学)  
中村公人 教授(京都大学)  
吉川夏樹 教授(新潟大学)  
桐博英 領域長(農研機構農業工学部門水利工学研究領域)  
斎藤貴視 課長(岩見沢市農政部農業基盤整備課長)  
椿一雅 事務局長((一社)農村振興センターみつけ)  
農林水産省(農地資源課長、水資源課長)  
オブザーバー(国土交通省、土木研究所、国土技術政策総合研究所)

### 令和3年度 スマート田んぼダム実証事業 田んぼダムWT

農研機構農業工学研究部門(若杉上級研究員、皆川主任研究員)、新潟大学(宮津助教)、サンスイコンサルタント(株)、オブザーバー(土木研究所、国土技術政策総合研究所)

- ① 都道府県現地調査(全国8地区)の指導・助言  
機器の設置、データ回収・整理、操作方法
- ② 調査結果に基づく効果の整理・分析  
スマート田んぼダム区、田んぼダム区、対象区の一筆排水量、支線・幹線排水路流量の観測・効果分析  
収量、水管理労力のデータ収集・分析
- ③ 全国の田んぼダムの取組の適地の整理・分析  
効果に寄与する要因(水田面積率)を検証し、田んぼダムの取組の適地の整理・分析
- ④ 普及・拡大に向けた課題抽出、「田んぼダムの取組 推進の手引き」の作成  
②、③から田んぼダムの取組の留意点、体制整備、合意形成、適地の考え方等を「手引き」としてとりまとめ

## スケジュール(案)

### 1 令和3年度 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会

#### 9月28日 第1回検討会

- ・水田の雨水貯留機能向上の取組状況
- ・先進地区の取組み・課題等
- ・実証事業進捗報告

#### 11~12月 第2回検討会

- ・留意点、体制整備、合意形成等
- ・水田の持つ雨水貯留機能の特性
- ・実証事業進捗報告

#### 2~3月 第3回検討会

- ・水田の雨水貯留機能向上の取組の効果
- ・普及・拡大に向けた留意点
- ・とりまとめ

### 2 スマート田んぼダム実証事業 田んぼダムWT

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
現地調査準備 機器設置・操作方法等	■											
現地観測				■			■					
						1期データ提出	2期データ提出					
観測結果 整理・分析						■						
モデルによる効果検証			■			■		■				
			モデルデータ入手		解析モデル構築		モデルによる効果検証					
適地分析・整理				■			■		■			
						要因(水田面積率)検証		ポテンシャルマップ作成				
手引き策定						■			■			
						実証地区アンケート調査		手引き策定				
成果とりまとめ									■			
											成果とりまとめ	

# 水田の持つ雨水貯留機能の活用に向けた検討会 (第1回)

## 議 事 次 第

日 時：令和3年9月28日（火）10：00～12：00（2時間）  
場 所：農林水産省 相談室（総務課の隣）

### 1 開 会

### 2 議 事

- (1) 検討会の目的、検討項目、スケジュール等について  
水資源課農業用水対策室
- (2) 水田の雨水貯留機能向上の取組状況について  
農地資源課多面的機能支払推進室
- (3) 先進地区（見附市、岩見沢市）の取組・課題等について
  - ① 見附市の事例  
椿 一雅（一般社団法人農村振興センターみつけ事務局長）
  - ② 岩見沢市の事例  
斎藤 貴視（北海道岩見沢市農政部 農業基盤整備課長）
- (4) 実証事業の進捗状況、田んぼダムの取組推進の手引きについて  
農地資源課経営体育成基盤整備推進室  
サンスイコンサルタント（株）

### (5) その他

### 3 閉 会

注) 会議は、WEB形式で行い非公開とする。